

親

子でいっしょに
考える

ネットモラル

早くから情報モラル教育に力を入れてきた、兵庫県姫路市。市教育委員会の2人の先生に、子供たちに情報モラルを育むために、大人ができることについて語っていただきました。



姫路市教育委員会 姫路市立総合教育センター
教育研修課 研修企画・ICT係
柳井 克文 係長(写真右)
坂田 怜輝 指導主事(写真左)

子供に 大人が追いつけていない

坂田 私は昨年まで中学校に勤務していたのですが、私の経験から言うと、小学校高学年から中1にかけてが、ネット上で仲間との関係がこじれやすい傾向があります。このぐらいの年頃の子供は、ネットの世界と現実世界は別モノだと認識して行動しがちなんです。だから学校ではすぐおとなしい子なのに、ネット上では結構キツイ物言いをするキヤラになったりする。それが発端になって、反感を持たれて、関係がこじれることがよくあります。

特にネットは文字だけのコミュニケーションなので、感情の行き違いが起こりやすい。保護者の方から「うちの子のラインで、のやりとりを見てみると、時々キツイ言葉が飛び交っていて心配なんです。どうしたらいいんでしょう？」と相談されることはとても多かったです。

柳井 親の世代は子供の頃にスマホなんてありませんでしたから、どう対処すればいいかわからないんです。逆に子供たちはデジタル・ネイティブですから、大人よりもどんだん先を行っている。大人が子供に追いつけていないんです。

禁止教育は もう時代にそぐわない

柳井 では、どうすればいいか。子供と話し合いながら、いっしょに考えていくのが良いと、私は思います。

一昔前は、携帯を子供に持たせない・使わせない禁止教育が主流でした。でももう、そういう時代じゃないと思います。今やみんなが仕事や生活で情報機器を使っていますし、姫路市の学校でもタブレットPCを授業で活用しています。禁止教育では、子供は反発こそすれ、正しく行動するようにならないと思うんです。教師からも親からも「ダメ」と言われたら、子供は隠れて使うようになってしまいます。

禁止するのではなく、子供がいっしょに使い方を考えてみませんか。子供が利用しているアプリの使い方を教えてもらいながら、「でもこのアプリでこういうことやったら大変なことになるよね? どう思う?」というふうに、親子で共通の課題を話し合うのです。

坂田 子供がいっしょに考えることで、子供がどんな課題に直面しているかを知ることでもできますし、共通の課題を持つことで、親子のコミュニケーションも進みます。

柳井 学校での情報モラル教育も、「〇〇してはダメ」という禁止教育から、みんなと一緒に考える方向へ変わってきています。情報モラル教育に限らず、今教育全体が、教師が指導して教え込むのではなく、子供に自分で考えさせる方向に変わってきています。

坂田 「どうしたらいい?」と考える機会を与えてあげると、子供たちは自分の問題としてとらえて、自分たちでルールを決めたり、けじめをつけるようになります。

私が担任していたクラスでは、「もう受験が近いので、夜9時になったらLINEをやめよう」と、子供たちが自発的にルールを決めて守っていました。自分たちで決めたルールって、他人に押し付けられたルールよりも、ずっと良く守るんですよ。

大人がすべきことは何か

坂田 子供がいっしょに考えるには、大人もある程度、最新のネット事情を知っておくべきでしょう。たとえば子供から「Twitterでこんなことが書かれてるんだけど……」と相談された時、「Twitterって何?」と聞き返すようでは、子供は「こりや相談してもあかんわ」と落胆して、もう話してくれなくなってしまう。そして自分ひとりで抱え込んでしまいます。

学校からどんな情報を知ると良いと思います。姫路市でも、学校だよりや講演などで、保護者の方々にトラブルの事例や対策などを伝えるようにしています。

柳井 私は、情報機器って「包丁」と同じだと思うんです。間違った使い方をすれば人を傷つける凶器になりますが、正しく使えば生活を豊かにしてくれるとても便利な道具になる。学校や家庭で、情報機器を正しく使う方法を、子供がいっしょに考えて身に付けさせていきたい。

そして最終的には、自立した子供に育てたい。自分で判断して、自分で行動に移せる人間になってほしい。子供たちが大人になる頃、社会がどれだけ変化しているか、どんな情報機器を使うようになっていくかわかりません。でも、自立した人間になっていれば、どんな社会になってもいようと、対処できると思います。

「こうしなさい」と指示してばかりいては、そういう子供は育ちません。「忍耐の教育」が必要ですよ。たとえばスマホの使い方を親子でいっしょに考えていると、つい大人が「こうしたら?」と結論を誘導したくなります。そこはグッと我慢して、子供に結論を出させる。その結論じゃ失敗しそう……と思っても、時には敗れて失敗させることも大事。その失敗を乗り越えてこそ、子供はまた一段、成長できるのだと思います。

ネットの危険から子どもを守るために

保護者のみなさまへ

子どもたちにもケータイやスマホが普及し、ネットを便利に活用しています。一方で、報道されるネットにまつわる事件や事故には深刻なものが多く、親として不安に思うことも多くあります。保護者が子どもを見守り、指導するためには、具体的には何を心掛ければ良いのでしょうか。

子どもが抱えるネットにまつわる様々な問題

① ネット依存

パソコン、ケータイ、スマホの他にも、ゲーム機、携帯音楽プレーヤーのような端末を使って、子どもたちはインターネットに接続しており、依存傾向の子どもも多く見られます。

② コミュニケーションのトラブル

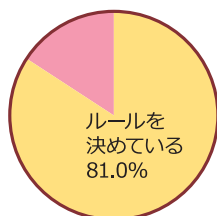
SNSやトークアプリの利用増加により、子どもも情報発信者になっています。相手とのやりとりでの予想外の影響やトラブルが、多くなっています。

③ ネット被害

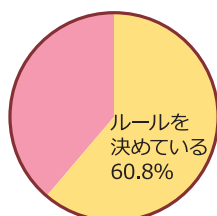
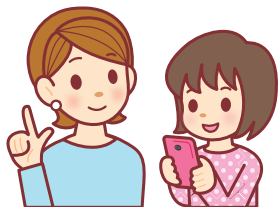
詐欺や不正請求のほかに、コミュニティサイトやSNSを介した誘い出しなど、深刻な犯罪が起こっています。



家庭でのルール 決めていますか？



保護者



子ども

「平成 27 年度青少年のインターネット利用環境実態調査」(内閣府)より作成

ケータイやスマホを買う時に、ルールを決める家庭はたくさんあります。しかし、保護者はルールを決めていると思っているのに、子どもはルールがないと思っているケースが20%もあります。

ルールは、親子で話し合いながら作り、約束をすることが大切です。

親子で話し合って、
一緒に「我が家のルール」を作しましょう

親子で作る「インターネット・スマホのルール」

以下の項目を参考に、それぞれの事情に合ったルール作りをしましょう。

1 ネット依存にならないために

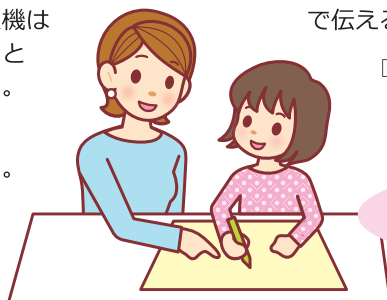
- ☐ スマホやゲーム機は、家族が集まる場所で使う。
- ☐ 食事中はスマホをさわらない。
- ☐ 夜____時を過ぎたらスマホやゲーム機は使わない。寝るときは電源を切る。
- ☐ 充電はリビングでする。

2 コミュニケーションでトラブルを起こさないために

- ☐ 友達が嫌がるような写真や動画をネットにのせない。
- ☐ ネットに悪口を書かない。
- ☐ 相手が分かりやすい丁寧な言葉で伝える。
- ☐ 困ったことがあったら、親や先生に相談する。

3 ネット被害に合わないために

- ☐ フィルタリングは18歳まで外さない。
- ☐ ネットショッピングは、必ずお家の人と一緒にする。
- ☐ ゲームの課金をするときは、お家の人と一緒にする。
- ☐ ネットで知り合った人には会いに行かない。
- ☐ 顔や住んでいるところ分かる写真や動画をネットにのせない。



ルールを作ったら紙に書いて
見えるところに貼りましょう